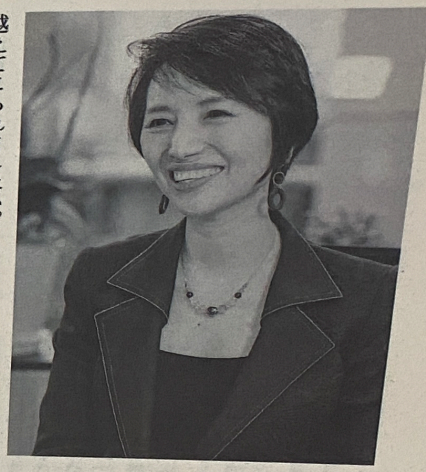
貫いていくような、何かグッと本質に迫ってくるものがあるじゃないですか。その人の生き方に関わってくるような。

いまの三人目のレンガ職人も、レンガを積むという単純作業の中に、自分は皆を幸せにできる素晴らしい仕事をしているんだという、プライドと生きがいがあって、一つひとつ念を入れてレンガを積んでいくわけですよね。あとの二人は嫌々やっていて、そこに何の精神性もないから、おかしな仕事になっていく。志を持って一つひとつ積み重ねていくことがないと、やっぱり崩れてしまいますよね。

朝倉　私は、これからは正直者がバカを見ない時代になっていくと思うんです。正直者で誠実にやっている人は必ず多くの人に理解されるようになるし、志が豊かなのか、魂を磨こうとしているのかということがより一層問われる時代になっていくと思うんです。

己れの立てるところを深く掘れ

朝倉　片岡さんもこれまでいろんな試練に直面してこられたと思うんですけど、どのようにして乗り越えてこられましたか。



片岡　最近は女性ばかりでなく、男性にも更年期障害があるって話題になっていますけど、僕も五十歳になる手前には、心身ともに弱ってきて、鬱々とした気持ちが続いていた時期がありました。とにかくすべてにおいて否定的、悲観的になってしまって、何か虚しいんですよね。ジムに行って無心に体を動しても、お風呂でひと息ついていると「あとは帰って寝るだけか……」と、また寂しさや虚しさがこみ上げてくる。

そんな時には、朝倉さんもおっしゃっていたけど、自分で自分を励ますしかないんですね。「おまえ何やってんだ。そんな暗い顔をしてる場合じゃないだろう。こんな気分の中にも大事な気づきがあるんだから、いまがチャンスだ。恵まれてるんだ。絶対大丈夫、絶対大丈夫、絶対大丈夫。笑え、笑え、笑え」って。そうやって自分を勇気づけ続けていると、だんだんそういう自分になっていくんですね。

朝倉　それはとても大事なことですよね。

片岡　それから、絵を描いていると、必ず一回か二回ドツボにはまる時があるんです。もう八方ふさがりで、どうしても筆が前に進まない。描きかけの絵を破り捨てて新しい紙に向かっても、結局同じところで躓くんです。

だから一回手をつけたら、どんなに無様で格好悪かろうと、せめて判定勝ちするくらいまではこの紙から離れない。ボクサーが一度リングに入ったら、どんなに倒されてもリングから降りまいとするように、絵を描く前はいつもそうやって覚悟するんです。

そしてドツボにはまりそうになったら、「あっ来た。ここが正念場だ。絶対に、絶対に道は開ける」って自分に言い聞かせるんです。だって心の中のシードが僕に描けって言ってくれているんだから。天が僕の絵が完成するのを願っているんだから、絶対どこかに灯りが見えてくるはずだって。そうやって奮闘していると、ここにちょっと色を差してみようとふと閃いて、そこからザザザッと道が開けたりするんです。

だからどんな困難に直面しても、絶対にここに宝物があるんだ、これはチャンスだと自分に言い聞かせて逃げないことですよね。そこを回避して突破経験を積まないと、また同じところで躓いてグルグル回るばかりでね。

明治の文芸評論家・高山樗牛は「己れの立てるところを深く掘れ。そこには必ず泉あらん」って言っていますけど、常にもうここしかない、いましかないんだと覚悟を決めて、一つひとつやり切っていくしかないんじゃないかと思いますね。

特集　気韻生動

朝倉　何が大事かって、やっぱり逃げない姿勢だと思うんですよね。自分はできると信じて、諦めないでやり続けること。

スタートは誰でもできるんですけど、継続することがなかなか難しい。でも一つでもいいから継続して、小さな成功体験を積むことってすごく大事だと思います。そこを多くの人は、表面的な格好よさに憧れて、地道な練習をワープしたがるんですね。でもイチローさんもおっしゃっているように、選手もおっしゃっているように、目の前のことをコツコツ地道にやる以外に途轍もない世界にはいけないと思うんです。最初はギラギラ頑張って、初めてキラキラになるんですよ。

若い時の苦労は買ってでもしろって先人もおっしゃっているじゃないですか。いまは働き方改革で仕事に対する価値観も変化してきていますけど、やっぱり二十代、三十代で手を抜いたら、四十代、五十代は大変だと思います。いま目の前のことに一所懸命取り組むこと、できると信じて諦めずにやり続けること、そういう姿勢は若い世代の方々に決して失ってほしくないですね。

丁寧に丁寧に積み上げていく

片岡　とにかく日々の生活を丁寧に、丁寧にやっていくこと。それ以外にないと僕は思っています。長台詞に役者をやっていると、苦しめられることがあります。でも、これをいただけるってことは本当はありがたいことなんですよね。おまえならすべてクリアできるからという信頼と期待を込めて僕にいただいたラブレターであり、メッセージだと思うんです。

朝倉　確かにおっしゃる通りです。

片岡　そもそも台詞っていうのは、楽して覚える方法ってないんですよ。どうやって覚えるかっていうと、センテンスを一つひとつ区切って反復するんです。例えば「おっ二人の出会い」って台詞があったら、「お二人の出会い、お二人の出会い……」って何度も繰り返して、十回ノーミスで言えたら次に移る。そうやって一つひとつ丁寧に覚えておかないと、次のものを上に載っけられません。さっきのレンガ職人のお話のように、一つひとつ手を抜かず、丁寧に丁寧に積み上げていく。時間はかかるけど、それが一番早く、一番遠くに行ける道なんですね。本番でもNGがないから、早く家に帰ってヨーガができるんです（笑）。

朝倉　皆、大事なことって面倒くさいと思うんですね。私は子供の頃、父に「横着するな」とよく言われました。ゴミを捨てる時でも、横着をしてポイッと投げたらゴミ箱に入らなくて、結局また拾いに行かなければならなくなります。やり直しが一番無駄な時間が掛かるんですよね。そういう基本的なことを適当にやるなということですよ。

もう一つ、見えない所を綺麗にすることも大事だと思います。人前でどんなにいいことを言っていても、部屋の中がグチャグチャだったら説得力はありませんよね。

今回テーマにいただいている気韻生動という言葉は、エネルギーが内から満ち溢れている状態だと思うんですけど、内から出てくるものってごまかしが効きませんよね。つくり笑顔だって見る人が見れば分かるし、逆に、いまを一所懸命美しく生きようとする生き方は、いろんなところから伝わっていくと思うんです。

片岡　僕は毎朝、世の中が静寂に包まれている時間にヨーガをするんですけど、それは肉体も精神もクリアにして天と繋がり、自分自身を客観的に見る時間でもあるんです。天からお借りしているこの命、そして古代から連綿と繋がってきたこの命の中で、いま僕が行く道はこれでいいんでしょうかと。いま朝倉さんは、内から出てくるものはごまかせないとおっしゃいましたけど、そうやって根源的な自分の魂が本当に求めているものに沿って生きていくことが大事だと思います。やっぱりそういう人は、内からいいエネルギーが溢れていると思うんです。

朝倉　食べる物で体がつくられ、聞いた言葉で心がつくられ、発する言葉で未来がつくられるという話を聞いたことがあります。すべて自分が選んでいるわけですから、不平不満を言って未来が明るくなることはありません。

やっぱり人の見ていないところでもコツコツ自分を磨き続けて、内から美しい気が満ち溢れるような人生を切り開いていきたいですよね。